
最初はあいつらだった

小説博士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最初はいくらだった

【Nコード】

N3841BA

【作者名】

小説博士

【あらすじ】

最初に隆に異常な事をしたのはあいつらだった…果たして何をしたのか。ストーリーは衝撃的展開。

隆六歳は平成初期元気に育っていた。お天氣の良い日に外庭で遊んでいたら、日が暮れてしまいそうになっていた。

母『そろそろ家に入りなさい』

隆『わかった。ちょっと待ってて』

隆は庭に転がっていたタイヤの穴に座ったりして遊んでいた、なかなか立ち上がれなくなったりして無我夢中でタイヤ遊びをしていた。母に呼ばれて隆はお家に入ることにした。しかし玄関の鍵が開いていなかったため、ガラスを割り鍵を開けようとしたのだ。

『バリーン』

隆は思い切りガラスを割ったが：怪我をしてしまった。手首をやってしまった。隆は真っ青になり、意識が遠のいている。なんとか二階にいる母の元へ階段を上り行こうとしたが、意識が遠のいている隆は階段に座り込んでしまった：隆は最後の力を振り絞り母の元へ辿り着いた。仕事に没頭している母は隆が怪我をしている事には気付かずに居たが、顔色真っ青の隆に気付き、歩み寄ると隆は大怪我をしている…

母『大変だ！どうしたんだ：…』

隆の母は救急車を呼ぼうとした。

母『家の息子が手首を切ってしまい大変なんです』

田舎病院『そんな所を縫うことはうちには出来ません：まあベテラン医師でもいれば大丈夫なんだけどね。ツハツハツハツハ』

母『わかりました。応急処置を教えてください』

田舎病院『先ずは寝せて下さい。そして直ぐにM市の病院に連れて行って下さい。早く！』

母は車に隆を乗せて病院に連れて行った。病院に着き隆はまず容態を確認された。失心寸前だったが点滴をうち直ぐに回復。手術は始まった。

ベテラン外科医『うーんなかなか難しい場所だねー、あっ！ガラスが中に入っていたら大変だ！よしっ大丈夫だ』

ベテラン外科医『おい！手術変わってくれ』

ベテラン外科医は若手に手術を任せた。

若手医師『任せて下さい』

赴任して間もない医師が初めて幼児の手術をする事になった。しかし若手医師はミスティンクしてしまったのだ。

傷口はぐちよぐちよになってしまい、上手く縫合できていない状態になり、病院は新しい病院を紹介するという事で紹介してもらった。新たにM市の病院に着き、隆の手術は無事手術成功。入院することもなく翌日の幼稚園卒園遠足を楽しみにしていた。隆は家に帰り遠足の準備をしていたが、やはり怪我ね痛みから大熱を出してしまい。翌日の遠足は行けなくなってしまった。しかし母とお庭でお弁当を食べて遠足気分を満喫したのだった。小学生になり左利きになって必死で勉強をしていた隆。友達とも仲良くしていたが、結構貧血気味であった。怪我の事でお爺さんは良かった良かったと治った事に喜んでいてくれた。お爺さんは昔から苦勞をしていたお爺さんで生まれて直ぐに両親が死んでしまい。親戚中をたらいまわ

しにされながら、学校も出れなかったのだが、隆が生まれた頃には大金持ちになっていて、無免許で車を乗り回していた。
お爺さん『自分でやったのか？』

母『そうなの、玄関でやっちゃったの』

お爺さん『リストカット症候群かと思われるぞ』

母『違うんだから、大丈夫よ』

父『もうちょっとで大動脈をきるところでして、大事にはいたらなくてよかったです』

お爺さん『この若さで死にはごり、よく生きていたな。ツハツハツハッハ』

隆の怪我は一年位してから治った。少年だった事で手首のつつぱりはたえなく感じていたが、リハビリで治していったのだ。

近隣おばさん『大変だわね、生きていたなんて、生命力の強い子だね』

母『そうですね。ウッフ』

近隣おばさん『そう言えば最近この辺でヤクザが暴れ回っているらしいわよ。危ないから気をつけましょうね』

母『えゝそうなの？あらやだ！お互い気をつけましょうね』

平成初期まだまだ治安は悪く、ヤクザは一般市民を脅かし金品を奪

いとつていたのだ。

ヤクザ『そういえば、最近体の調子が悪くて病院に行ってきたんだ』

ヤクザ『そうですか。良いお薬は頂けましたか？』

ヤクザ『あゝ貰えたよ。薬とおいしい話をな』

ヤクザ『…おいしい話？なんですかその話って。もったいぶらないで教えて下さいよ』

ヤクザ『あゝ実はなく医療ミスをしてしまっから、家族を脅かしてくれないかと言われたんだ。その家族には金持ちがいて、たしかに俺も知っている大物なんだ。うまくいけば金儲け出来るかもしれないんだ』

ヤクザ『ヒッヤヒヤヒヤヒヤ。そりゃあ美味しい話ですね。親分の図体見たら直ぐに泣き寝入りですぜ。でいつやるんですか？』

ヤクザ『バカヤロー間違って捕まったら大変なんだぞ。警察の知り合いにも話を通して、病院側からの依頼だと言って黙って貰おうかとあの医師の石山が言っているからな。間違ったら俺も石山もお縄だ』

ヤクザ『確かにそうですね…思い切りふんどくってやりましょう』

『ガラガラガラ』

ヤクザの親分の知り合いが入ってきた。なんだか騒々しい様子だ。ヤクザ『親分。今例の組長刺殺してきたした』

血まみれの短刀とポラロイドどで撮った敵と思われる組長の写真を

差し出した。

ヤクザ『そうか。やったか。追ってはいないんだろうな』

ヤクザ『大丈夫です。とにかく身を隠しますので失礼致します』

ヤクザ『気をつけろよ』

ヒットマンとなったヤクザは身を隠すためその場を去っていった。

隆は学校で野球スクールの入会希望書を見つけリハビリに良いんじゃないかと担任の先生に言われていた。

同級生『隆君いっしょにやらない？野球って楽しいと思うんだよね』

隆『まずはお父さんとお母さんに聞いてみないとわからないな』

同級生『そうかわかった。一緒に出来たら良いね』

隆は家に帰ってから両親に聞いてみた。

隆『僕野球を始めたいんだけどやっていい？』

両親『ベースボールか。運動は良いことだから、頑張ってやれよ』

隆『ありがとう』

隆は野球をする事になり、週末は楽しい楽しい時間になっていた。最初は上級者がレギュラーだったため、球拾いをしていた。隆は学校から約二キロくらい離れていて、毎日歩いて通学していた。ある日通学路にある一軒家から目つき鋭い老婆さんが現れ隆に話しかけた。

通学路にいたお婆さん『お前止まれ』
低いガラガラ声で隆に話しかける。

通学路にいたお婆さん『お前のお爺さんは私に文句を言いやがったんだ。お前は可愛いから許してやる、だけど私の孫だからね』

隆『孫って何?』

通学路にいたお婆さん『黙れ!』

すると後ろから中年男が家からでてきた。

中年男『孫って言うのは、まあ血の繋がりがあるって事だ』

中年男とお婆さんは薄笑いをして顔を合わせた。

隆『繋がってないよ。それは知ってるんだ』

中年男『何!生意気言うんじゃないぞ!まあいい。テメーの記憶に俺らの恐怖を叩き込んでおけばいいんだからな』

隆が話しかけられた一軒家は五人家族で、隆の同級生のお爺さんとお婆さんだった。近所では噂のたっているヤクザだった。隆はその日も家族と一緒に夕飯を食べていた。

隆『ねえねえ。お爺さんとお婆さんは四人だよ?』

母『何でそんな質問するの?まあ四人だけど…まさか誰かに変な事言われたのか?』

姉『えー怖ーい』

父『お前は黙っている』

隆『実はねあそこの…』

父『あそこってどこだか！あそこじゃわからないだろ』隆『……………
学校から帰っていたときに、知らない人におまえは私達の孫なんだ
！言う事を聞けって言われたんだ』

父『そうか。そんな事はないから騙されるなよ』

隆『わかった』

父『学校は楽しいよな？』

隆『うん。楽しいよ』

こうして変な話は終わったが、ヤクザは隆に嫌がらせをし続けていた。勉強もあまり出来なくなり、集中力がなくなっていて、隆は体育大好き少年になっていた。戦後約五十年。19世紀は終わろうとしていた…世の中を騒がせる事件もあったが、20世紀を前に盛り上がるニュースも沢山あった。

ヤクザ『あの小僧に動きをつけたか？俺は石山にあって話を進めておいたぞ。このままいけば噂になることはないから宜しく頼みます
と言っていた』

ヤクザ『そうか。だったら後はとことん攻めるだけだな。まずは小僧の家に乗り込むぞ』

ヤクザ達は隆の

家に乗込み、ひと暴れをした。ヤクザの親分は数人の男達を連れて行き、隆の家族に脅迫気味の態度で話を始めた。

ヤクザ『こうして俺達がやってきたのは依頼を受けたからだ。医療ミスを隠蔽してくれと言われたからな』

父『医療ミスではないと思っているんだが、どういう事だ?』

ヤクザ『テメーの家族に金持ちが居るだろ。死にたくなければ少し金を用意しておけ』

父『ふざけるな。他人に渡す金は一切ないぞ』

ヤクザ『何?俺達はお前の息子が第一に助かった病院に頼まれているんだぞ。それでも言う事を聞かないつもりか?俺の知り合いを全て出しても言う事を聞いて欲しいな...』

父『.....無理だ』

ヤクザ『今日の所はひとまずわかった。失礼』

こうして隆のまわりにヤクザはまわりついたのだ。

ヤクザ『どうしたんですか。とことんやるんじゃないんですか?』

ヤクザ『実は組員が他の組に拉致され、テメー等とは逆の動きをさせてもらうと言ってきたんだ。小学生を狙い付けてやっているのがばれちゃってな...』

ヤクザ『そうですか』

ヤクザ『安心しろ。ここまできたら本気でやるしかねえー』

隆は野球を続けていた。野球を初めて一年が過ぎようとしていた。野球をしていたら黒い服を着た男達が野球場に来てそこに居た人たちに話しかけた。した。

ヤクザ『テメー等あり金全部出せ。逆らったらぶつ殺すぞ』

一般人『お金はありません』

お金はないと言われた事に腹を立てた男は殴る蹴るの暴行を加え、暴れ出した。直ぐに警察を呼んだが、男達はピルトルを出し、タイムン勝負を警察官に要求した。警察官は拳銃を手に取り、威嚇発砲。暴行を加えた男は連行されていった。事件は全て解決した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3841ba/>

最初はいくらだった

2012年1月9日23時49分発行